



小林鷹之こばやし たか ゆきからの手紙

Vol.66

衆議院議員
小林鷹之
国政報告

討議資料

自民党千葉二区支部
小林鷹之事務所発行
(千葉市花見川区・八千代市)

初登院

HP



kobayashi-takayuki.jp

五期目の衆議院議員として

新たな政権運営がスタートしました。人口減少、地方の疲弊、経済力・科学技術力の相対的な低下、厳しさを増す安全保障環境、同盟国米国の新政権誕生など、わが国は分岐点に立たされています。先の総選挙の結果を受け、自民党は比較第一党なるも、少数与党となり、政権運営の難しさが増したことは事実ですが、内政・外交ともに、政策実行のスピードが緩むことがあってはいけない。そのことを肝に銘じ、国政に精進します。

これまでを少し振り返ってみます。令和6年夏から総裁選・総選挙と二気通貫で走り続けてきました。



当選証書の受け取り。

第50回衆議院議員総選挙



当選後のインタビュー。厳しい結果予測に険しい表情。

地元のイベントにも積極的に参加



運動会



花園ハス祭り



神輿渡御



秀明大学飛翔祭



週末はできる限り各地区で国政報告。

15年目の朝の街頭。週末は街頭演説。



できるだけ目線を合わせて



世界をリードする国へ。

後援会に入会しませんか

会費無料

- 各種行事のご案内
- ファクスマガジン、メールマガジンを配信
- お申込み、お問い合わせは、電話(地元事務所)、メールまたはホームページからお願いします。
- (既に後援会会員の方でメールアドレスを未登録の方は、地元事務所までご連絡下さい)

- 地元事務所 〒276-0033 千葉県八千代市八千代台南1-3-3 山萬八千代台ビル1階 TEL047-409-5842 FAX047-409-5843
- 国会事務所 〒100-8981 東京都千代田区永田町2-2-1 衆議院第一議員会館417号室 TEL03-3508-7617 FAX03-3508-3997
- Mail info@kobayashi-takayuki.jp
- Twitter [x.com/kobahawk](https://twitter.com/kobahawk)
- facebook www.facebook.com/hawk.kobayashi
- HP kobayashi-takayuki.jp

衆議院議員

小林鷹之(こばやし たかゆき)

Profile

選挙区：千葉県第二選挙区(千葉市花見川区、八千代市)

現役職

財務金融委員会 筆頭理事
憲法審査会 幹事
沖縄及び北方問題に関する特別委員会 委員

自由民主党

科学技術・イノベーション戦略調査会 顧問
知的財産戦略調査会 会長
日・グローバルサウス連携本部 本部長
経済安全保障推進本部 本部長
日本電信電話株式会社等に関する法律の在り方に関する特命委員会 委員長
インフラシステム輸出総合戦略特別委員会 委員長代行
税制調査会 幹事
安全保障調査会 副会長
アジアにおける安全保障のあり方特命委員会 副委員長 等

元役職

経済安全保障担当大臣
内閣府特命担当大臣(科学技術・宇宙)
防衛大臣政務官

略歴

1999年(平成11年) 東京大学法学部卒業
大蔵省入省
2003年(平成15年) ハーバード大学ケネディ行政大学院修了(MPP:公共政策学修士)
2005年(平成17年) 財務省理財局総務課課長補佐
2007年(平成19年) 在アメリカ合衆国日本国大使館書記官
2012年(平成24年) 第46回衆議院議員総選挙 初当選(現在5期)
2016年(平成28年) 第3次安倍第2次改造内閣 防衛大臣政務官
2021年(令和3年) 岸田内閣、第2次岸田内閣 経済安全保障担当大臣
内閣府特命担当大臣(科学技術・宇宙)



第一声と最終演説は地元で



私以外は自民党の名だたる方々



自由民主党 総裁選挙

仲間に送られて
所見発表会へ



8月19日、一番最初に出馬表明

全国の仲間の応援へ 12日間で50力所以上回ってきました。



対談の機会を 頂きました

ON AIR



落合陽一氏 堀江貴文氏 中田敦彦氏

自民党総裁選

自民党の党史を振り返っても、当選4期40代(当時)で事実上の総理を決める総裁選への立候補は異例でしたが、真っ先に名乗りを上げました。

冒頭に書いた通り、日本が分岐点にあるとの認識の下、この数年の政治の歩みが数十年後の日本の未来を大きく左右すると考えていたからです。政治資金問題への対応のみならず、政権運営において、「場当たり的な対応」が垣間見られていたことに強い危機感を抱きました。何よりも、国政を志す動機となった、国際社会の中での日本の存在感を高めるためには、中長期の目指すべき国の姿(ビジョン)を政治が示す必要があると考え、自ら立つことを決断しました。

皆様から厳しいご判断を頂きました。政治資金問題への対応を含め、敗因は様々ありますが、本質的には、解散の大義や自民党としての政策が国民の皆様には伝わらなかつたことにあると私は考えます。大いに反省すべき点です。

厳しい選挙戦を強いられる多くの仲間から応援要請を頂き、北海道から九州まで合計50か所以上の選挙区を駆け回りました。12日間の選挙期間中に地元選挙区に入れたのは僅か1時間でした。地元の議員・後援会の皆様には多大な負担をかけることとなりましたが、一人でも多くの同志と共に国会に戻り、国創りに携わるための選挙戦だったことをご理解頂けますと幸いです。

私自身については、頂いた票の重みだけでなく、投票頂けなかつた方々の思いも受けとめて全力で職務に励んでまいります。

今後の政策について

今後は、党の政務調査会にて複数の政策の長を務めることとなりました。

一つは、経済安全保障推進本部長です。経済安全保障という政策分野を共に切り拓いてきた甘利明前本部長からのバトンタッチ。課題山積ですが、わが国の経済構造を強靱化する観点から、①有事に関するリスク点検(大規模なサイバー攻撃、海上封鎖、パンデミックなど)、②「経済安全保障戦略」の策定、③産業政策や科学技術政策を通じた「強み」の獲得、④その他緊要事項(インテリジェンスやデータセキュリティの強化など)に関する検討を深掘りしていきます。

二つ目は、日・グローバルサウス(GS)連携本部長です。

GSとはインドを含む新興・途上国の総称です。現在、欧米先進国とGSとの間で価値や

また、自民党を当選回数ではなく、能力・経験を重視した真の意味で実力主義の組織に変え、脱派閥選挙を掲げ、派閥の領袖などには一切支援を求めませんでした。党改革と私が目指す日本の姿を共有した多くの仲間が共に立ち上がってくれました。

知名度が低かつたので、北はオホーツク(北見)から南は石垣島まで全国を飛び回り、各地方で多くの方に「小林鷹之」を知って頂くと共に生の声を聞くことができました。また、私をサポートしてくれた同僚議員同士のメールが連日深夜の2時、3時に飛び交うほど。「チーム・コバタカ」のサポート体制は9陣営中群を抜いていたと思います。

他の8候補は自民党を代表する先輩議員でしたが、多くの仲間の支援のお蔭で一切気後れすることはなく、「必ず勝ち抜く」との強い思いで論戦に臨むことができました。結果は9人中5位。地元の千葉県で3位に終わったことを含め、敗北の責任はひとえに私自身の力不足です。全国の皆様から「小林鷹之にこの国を任せろ」と思ってもらえるよう、引き続き、精進を続けてまいります。

※自民党総裁選にて投票頂けるのは、直近2年間続けて党員となつていらっしゃる方とされています。自民党を活力ある組織へと変革する覚悟を持つ私をご支援いただける方には、ぜひ黨員になつて頂きたく存じます(詳しくは、小林鷹之事務所までご連絡頂けますと幸いです。)

衆議院選挙

石破茂新総理・総裁が誕生した直後に解散・総選挙となりました。結果は、目標とされた過半数を割り込むといった事実上の敗北。国民の

利害をめぐると対立が芽生えています。GSの中には、民主主義や環境・人権問題に関する先進国の言動を「押しつけ」と受け止め、むしろ、中国やロシアなどに親近感を感じる国も少なくありません。これは、国際秩序のあり方にも関わる問題なのです。これまでわが国はGSと、欧米や中口とは異なる支援のやり方で信頼関係を築いていますが、今後はさらに経済的関係などを深めることが重要です。GSと先進国との架け橋となる具体的な取り組みを党として検討し、政府に実行を促していきます。

三つ目は、知的財産戦略調査会長として、デジタル時代のコンテンツ戦略と国際標準化の取組を進めます。特に標準化への取り組みを急いで、「技術で勝つて、ビジネスで負ける」ことがないようにすることが重要です。「国家標準戦略」の策定と体制の強化を急ぎます。

更に、NTT法のあり方に関する特命委員長としては、わが国の情報通信産業の国際競争力の向上、ユニバーサルサービスの担保、公平・公正な競争環境の整備、経済安全保障といった観点から、時代にふさわしいNTT法や電気通信事業法のあり方を追求していきます。

その他、幅広い政策づくりを通じて、日本を「世界をリードする国」にするために全力で国政に邁進していきます。

令和六年十二月吉日

衆議院議員 小林鷹之